

2-T-1

地域における共生社会の実現に向けた総合的研究 —長田区・兵庫区を中心に—

濱田道夫¹⁾

中田康夫²⁾ 黒野利佐子²⁾ 阿児 馨²⁾ 永島 聡²⁾ 尾崎優子²⁾ 紀ノ岡浩美²⁾
大城亜水³⁾ 高橋由希子⁴⁾ 小林容子⁴⁾ 戸谷富江⁵⁾ 内橋一恵⁵⁾

近年急速に外国にルーツを持つ住民が増加している。本研究ではアクションリサーチの手法を用いて、国際保健活動を核に長田区と兵庫区でフィールドワークをしながら、外国にルーツを持つ住民の健康と教育に関する諸問題について情報収集と分析を行いつつ、今後一層多様化する地域社会への新たな大学の貢献のあり方を探っている。

2019年度は国際交流シェアハウスやどかり(兵庫区)、カトリックたかとり教会(長田区)等で活動のための基盤作りを行い、国際保健活動や技能実習生への研修、長田区での乳幼児検診の視察と聞き取り、駒ヶ林小学校 JSL 教室や長田区内にある母語母文化教室でのフィールドワークを通じて、次のような課題が明らかになった。

留学生や技能実習生などの若年層は生活リズムの安定や栄養の指導が必要だが、日本での収入の少なさや生活コストの高さが背景にあるため指導だけではカバーしきれない問題が多い。高齢の定住者には生活習慣病の理解や予防、服薬指導などのニーズがあるが、一方的な指導だけでなく、各文化における身体イメージや病気と治療の考え方を把握する必要がある。外国にルーツを持つ子どもたちは、保育園、小学校など、どの成長段階においても多文化共生的な視点で設計された教育に出会える可能性が低く、地域や現場の取り組みは連携が不足している。また、成長のロールモデルも不在である。

今後本研究を継続しながら、各課題へのアプローチを行う予定。

1) 神戸常盤大学学長 2) 保健科学部看護学科 3) 教育学部こども教育学科
4) 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科 5) 事務局法人本部社会連携課